



森林ふれあい情報

平成28年7月
第39号

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

木曽の遊歩道を巡る「木曽路パズルラリー」

4月29日（金）、木曽路の森林に親しみながら森林の大切さを理解してもらうとともに、御嶽山噴火災害の復興支援を目的として、木曽路にある散策コースの12個所に置いたパズルを6個集め1枚の絵が完成する「パズルラリー」を「木曽路全域コース」500セットと「赤沢自然休養林コース」600セットを平成29年11月12日までの期間でスタートしました。



6個のパズル



完成品（木曽街道 馬籠）

「木曽路全域コース」は、木曽街道の浮世絵を、地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷したものを6分割し、各町村に1ピースを置き、木曽地域の6町村を巡らないと絵は完成しません。また、木曽路散策コース全12箇所制覇された先着100名様には、はがき大の地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷した木曽街道の浮世絵をプレゼントしています。

現在、木曽地域市町村、観光協会等の協賛団体でのチラシの配布や、ホームページへ、リンクをしていただくなどのPR効果もあり、県内を始め関東方面や中京方面等幅広い地域の皆様がチャレンジし、すでに30名の方が達成しています。

「赤沢自然休養林コース」は、自然休養林内で完了する普及版として、木曽式伐木運材図を6分割したのもも同時開催しましたが、予定の600セットが好評により開始から2ヶ月で終了してしまいました。当初、夏休みまでは終了しないと考えていましたが、ゴールデンウィーク中は、大勢の方の挑戦があり、多い日には1日に50名以上の方が参加しました。アンケート結果では、ほとんどの方が、「良かった」との感想で、「継続してほしい」との意見も多く寄せられました。



また、新たにのぼり旗を散策路に設置したり、木曽地域の各道の駅の情報コーナーにもチラシ等を置くなど、当初の目的を達成するためPR活動を進めており、夏休み期間中のチャレンジャーの増加を期待しております。

ニホンジカ対策について

木曽谷におけるニホンジカの被害は、まだ顕著に表れてはいませんが、生息数は近年増加傾向にあります。

国有林率が高く良質のヒノキ人工林の多い木曽谷においては、中部森林管理局署が率先してニホンジカ対策に当たることが求められます。

木曽谷のニホンジカの調査は、平成25年度からセンサーカメラにより木曽森林管理署及び南木曽支署が着手しました。

センサーカメラを設置して間もなくニホンジカが撮影され、ほぼ木曽谷全域に生息していることが分かりました。これまでニホンジカの存在すら気にかけていなかった職員も多く、改めてニホンジカの侵入に驚きました。

ニホンジカ対策として、昨年度から木曽森林管理署において、くくり罠の貸し出しや委託契約による捕獲駆除に着手し、今年度、当センターも木曽森林管理署と連携し、試験的に囲い罠による捕獲に取り組むこととしました。

5月16日、長野県木曽郡木祖村の小木曽国有林において、立木を利用した移動可能な繊維ネットで周囲約50m程度の比較的小型の囲い罠を設置しました。

捕獲効率を高めるため、ニホンジカが罠に入るとセンサーにより自動的にゲートが閉まるタイプとしました。

現在、ヘイキューブ、塩及び醤油等で誘引していますが、生息数はまだ少ない地域ですので、これから冬にかけて地道に取り組んでいきたいと考えています。

また、当センターが平成17年度から取り組んでいる中央アルプス高山帯での植生復元を実施するに当たり、中央アルプス伊那谷側の高山帯において、平成25年にニホンジカの生息が確認されました。

高山帯へニホンジカが侵入することで、高山植物に壊滅的な被害を受けることから、ニホンジカにおける食害防止対策を行うに当たり、中央アルプス木曽谷側の高山帯及び亜高山帯でニホンジカの生息状況を把握するため、今年度からセンサーカメラによる調査を実施することとしました。



「城山史跡の森」

希少種等の個体調査と保護活動

当センターの主要な活動フィールドの一つである、木曽町福島の城山国有林内の「城山史跡の森」にはヤマシヤクヤク、ササユリ、カザグルマなどの県指定希少野生植物が生育しており、これらの植物に加え群生が見られるカタクリについて個体の増減を毎年調査しています。

また、希少植物の生育地では「城山史跡の森倶楽部」と連携しながら貴重な植物の保護等に取り組んでいます。

【カタクリ】(4月27日調査)

全9プロットのうち4プロットで開花しており、開花数は22と昨年の54に比べて減少しました。





【ヤマシャクヤク】(5月12日調査)

今年の開花ピークはゴールデンウィークと特に早まり、調査日での開花数はわずかとなりました。

平成26年度から未開花のものも含む個体数も調べていますが、昨年度の527から約3割減少し357となりました。

【ササユリ】(6月15日調査)

開花数は昨年の27から29とやや増加し、今年は開花範囲が広がる傾向を示していました。



【ササユリ生育地の整備】

ササユリは山地の草原や明るい森林に生育する多年草で、葉がササに似ていることに由来し、6～7月頃に茎の先端から漏斗形で淡紅色の花が咲きます。

ここ数年は、動物による食害(特にイノシシ)が見られたことから、5月11日に新たな試みとして電気柵を同倶楽部会員のみなさんとともに設置しました。

【カザグルマの整備】

カザグルマは、つる性の低木で林縁部の日当たりのいい場所を好み、5月下旬から6月上旬に白や淡紫色の大きめで可憐な花を多数付けます。

5月18日、生育地でのつるが巻き付く竹棹が古くなったことから、竹棹の取り替え作業を同倶楽部会員のみなさんと一緒に行いました。



遊歩道の整備



倶楽部のみなさん

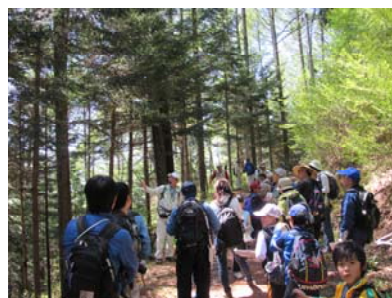
「城山史跡の森」は木曾町の中心街の近くにあつて、気軽なハイキングコースとして知られています。

4月10日、遊歩道の整備等を「城山史跡の森倶楽部」の会員、木曾森林管理署、当センター職員ら約20名が参加し、遊歩道の草刈りや整備、枯枝の除去などの作業に汗を流しました。

春の植物観察会

木曾町観光協議会主催の植物観察会が4月29日(金)に行われ、小学生など約30名の参加者が春の芽吹き始めの森林で植物の観察を楽しみました。

この観察会は、毎年、「城山史跡の森」(福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を総称)で行われているもので、当日は、植物に詳しい県植物研究会員の講師や同倶楽部の会員の案内で約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策しました。



木曾川下流域住民との交流

平成の名古屋市民の森づくり

木曾川上流域の豊かな自然環境を残していくことを目的に、名古屋市民による「平成の名古屋市民の森づくり」活動が5月14日(土)に木曾町の町有林で行われました。

平成21年から実施されている活動で、8回目となる今回は名古屋市民や関係者約200名が参加し、ヒノキとコナラなどの広葉樹730本の苗木を植えました。



木曾の国有林見学会(春季)

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会(春季)」を5月25日(水)に開催しました。



この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曾地域と名古屋地域の、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び名古屋の熱田白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく現地講座を名古屋市熱田生涯学習センターと共催により開催したものです。

当日は、名古屋市内を中心に41人が参加し、森林鉄道の車窓から見える森林と溪流が織り成す景色を眺め、また、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曾ヒノキやサワラが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学ぶとともに、今年度から始めた、赤沢自然休養林内の散策路を歩いてパズルを完成させる「パズルラリー」にチャレンジしました。

参加者からは「森のすばらしさを再認識した。」「森のことをもっと知りたくなった。」また、パズルラリーについては、ほとんどの方が「良かった」との感想が寄せられた他、「我が社の職員研修として計画したいが、現地案内をして戴けるか?」といった問い合わせが寄せられました。

また、今回も王滝復興支援の取組として、王滝村から弁当の調達とともに、今回はおやき、エゴマのお菓子や、エゴマとすんき漬けを使った「御岳カリー」が、チャリティーとして地元特産品のお土産として配られました。後日「うちの飲食店で提供したいのでまとめて仕入れたい・・・」といった問い合わせがあり、この取り組みによる支援の輪は確実に広がって来ました。

うぐい川ウォーキング

木曽郡王滝村松原スポーツ公園をメイン会場として、「水と緑の感謝祭」が6月11日（土）12日（日）に開催され、木曽川下流域の住民を中心に愛知用水や中日森友隊などが参加しました。

この「水と緑の感謝祭」は、昭和59年9月14日に発生した長野県西部地震による荒廃地の復旧を通じ、未来世紀へ豊かな森林を継承するという目的で平成11年から「未来世紀へつなぐ緑のバトン」実行委員会で実施しているものです。

12日は、水と緑の感謝祭の特別企画「秘境 うぐい川ウォーキング」で、木曽森林管理署、当センターの職員もスタッフとして参加し、鹹川森林鉄道跡の散策において「中日森友隊の隊員」約40名の案内を行い、途中、うぐい川の河原に降りて、床堰、黒淵の景勝を楽しみました。



平成日進の森

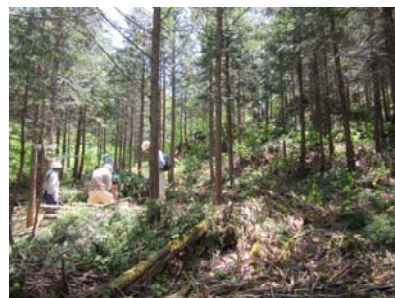
木曽郡木祖村と愛知県日進市は木曽川が取り持つ縁で友好自治体提携を締結し、四季を通じて様々な交流活動を行っています。5月12日（木）に、交流のきっかけとなった味噌川ダムの管理開始20周年目の年でもあり、木祖村・日進市合同育樹祭と味噌川ダム管理開始20周年記念桜植樹式が併せて行われました。当日は晴天に恵まれましたが、あいにく前日までの降雨により「平成日進の森」までの林道が通行不能であり、「平成日進の森」周遊散策と見学は残念ながら中止となり、桜の植樹式、ダム湖畔の対岸からの見学と午後からは環境省の「平成の名水百選」に選ばれている水木沢天然林の散策となりました。

森林ボランティア作業支援

地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曽郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムが行われ、その後、「ふれあいの森（名称：『太樹の森・赤沢』）」を設定して以来、毎年森林整備を実施しています。

5月21日（土）、22日（日）に行われた「山と緑の協力隊」第203回プログラムでは両日14名の参加者のもと、樹齢約20年生の人工林ヒノキの除伐作業等を行い、当センターは木曽森林管理署と連携を図り、作業の手順、安全指導及びヘルメット等の貸し出しを行いました。



犬山中学校



愛知県犬山市の犬山中学校は、木曽川の上流である木曽地域において、木曽の自然や文化を学ぶ木曽総合学習を毎年行っています。

5月9日（月）に2年生の約230名が、3つのグループに分かれ、遊歩道へのヒノキチップ撒きと森林散策を行いました。1つのグループは記念植樹も併せて行いました。

当センター職員もそれぞれのグループにおいて作業指導及び森林散策の案内を行いました。

上松技術専門校

長野県上松技術専門校は、木工加工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大変さ、大切さや木曽の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。

5月13日（金）に、訓練生34名が、熊による皮剥ぎ被害を防止するため、ヒノキの幹にテープを巻く作業を実施しました。作業終了後は、赤沢自然休養林内を散策し、木曽ひのきの歴史等について学びました。木曽森林管理署と当センターとで、作業の指導と散策の案内を行いました。



【人事異動】 4月1日付

転入：上席自然再生指導官（所長）	新家 孝之（南信森林管理署より）
自然再生指導官	小澤 益幸（北信森林管理署より）